OIS
大阪府インテリア設計士協会
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553
URL http://jp-interior.or.jp/ois
blog http://oisblog.exblog.jp
E-mail ois@jp-interior.or.jp

HASHIRIGAKI
葉知利書

編集スタッフ
広報部長：田原
広 報 部：石渡・広畑・河原
仲田・朝日・園田
高尾・加茂
事 務 局：奥田・岡崎

COMMUNICATION
情報伝達
意思疎通
No.83

新年度を迎えて

会長 宮後 浩

春、人と出会う機会が多くなる、１年の中で変革の時期なのかもしれません。近年、徐々に出会う若者たちの元気な声が聞こえなくなってきているように感じる。話す機会が減ったのか、そんな場所に行くことがなくなったのか、話をしなくてもいい時代になったのか。

自分自身、昔、デザイナーは目と手があれば良いと思っていた時期があった。現実の仕事をしていく段階で、口の役割が大きいことに気がついた。デザインという仕事はコミュニケーションの仕事であり、クライアントと理解しあうのに話し合いは欠かせない。厳しく言えば、相手の考え方を理解できないものが、デザインの仕事をやるべきでは無いとさえ言える。目を見てすべてを分かり合う、こんな能力があれば口はただ食べるためにあるだけでいいのかもしれないが、ほとんどの人が話し合うことによって理解しあえていると思う。

もっと、話し合うことの重要性を知らしめる機会を作ってあげたいものです。

OIS 総会報告

4月23日(金)、コラムデザインセンターで平成22年度の総会が行われました。350人ほどの会員数にしては少し寂しい28名の参加者のなか、21年度の事業・決算報告、22年度の事業計画・予算案が審議されました。

21年度は会員増強と、前年度の赤字解消を目指し経費削減に努めましたが、受験者数は伸び悩み、会費収入も思わしくなく、経済的には恵まれない一年でした。しかし、実施された見学会、サロン、Barなどの催し物などは回数も多く内容的にも高く評価され、また、22年度事業計画案では、青年部の新しい企画・「MANA-BOZE」と「ASO-BOZE」が発表されるなど強化が図られ、「葉知利書」のさらなる活用や数多くの催事が盛り込まれ、本年度の活動に向けて、大いに期待できる総会であったと思います。

「総会」という言葉の重みで参加者が少ないような気がします。決して堅苦しいものはありませんので、若い方々もぜひ参加するようにお願いします。 (事務局)

総会後の手作り交流会でのカンパイ

寄稿記事 会員歴・50年目に思うこと

植村 哲

いつのまにか会員として50年目を迎え、改めて振り返ってみて、月並みな感想ながら長かったようで、アッという間であった。

協会創立は昭和30年、今年で53周年、昭和36年(1961)の第1回資格検定から本年で50回、その誕生から今日までの成長の過程については関係された皆さんの努力の賜と敬意を表します。

丁度第1回資格検定試験のその年に試験を受けるべく入会をしている。まだその頃は戦後の「混乱」を引きずっている時代で、「インテリア」といった言葉もなく「室内装備設計士」といい、「室内装備設計技術家協会」といった。いかにも重々しく深みと厚みを感じる名称であった。

こんなことを思い出していると、当時の業界の重鎮、大先輩方の顔が浮かんでくる。原稿を作っている背後から微笑みながら叱咤激励されている錯覚に陥る。当然ながら若輩者であった自分にとって、今日のインテリア業界の繁栄と状況を想像することは困難であった。

その後、類似する資格試験が生まれてくるなか、名称も「インテリア設計士」と変更し、1年に1回、途切れることなく通算50回の実施、これは50年の歴史を積み重ねてきたことにほかならない。

これからの社会状況の変化は、過去の50年に比較にならないであろう。しかし、いかに世界がグローバル化されようとも、人間の必要とする居住空間、商業空間等はなくならない。今後はもっと多様化した活躍のステージが現われるものと思われる。ひとつのレパートリーとしてインテリアを把握し、そして更に関連する分野の興味と研鑽が必要であろう。勉強すべきことは沢山ある。

協会にとっても個人会員においても、色々な問題がある。あって当然、しかし恐れることはない。現在直面する不景気も、考え方を変えれば、人を育てるチャンスである。

協会にさしたる貢献もできず、年数だけ重ねてきた感じだが、「枯れ木も山の賑わい」。そのうち「枯れ木に花が咲く」とあるように、アッと驚くタメゴロー(ちょっと古いか？)といったことがあるかもしれない。その日を楽しみに、益々の盛況を祈るのみである。

なお、長年の仕事を通して色々体験してきたことや見聞した沢山の「失敗や数少ない成功例135例」と「造作家具造り、技術読本」をまとめて次世代の方に役にたてばと、只今構想中である。

受験目標1300人と力強い挨拶をする疋田会長

本部総会報告

本部・日本インテリア設計士協会（社団法人日本室内装備設計技術協会）の第44期通常総会が5月15（土）・16（日）の日程で行われた。

今回は富山県支部の幹事のもと、JR富山駅近くの名鉄トヤマホテルに全国から60名を超す代議員並びに一般会員が集まり、そのうち、OISからは例年に比べると少ない7人が参加した。

本部の21年度は、やや下降気味だった受験者数が再度上昇気流に乗ったことや、全国のインテリア団体で協議されている、新しいインテリア環境評価基準【OIKOS（オイコス）】への参画など明るいニュースが報告され、新年度に期待出来る総会であった。

その後の懇親会では、富山の郷土芸能「越中八尾おわら節」の歌と踊りが披露され、新鮮な刺身（名物ホタルイカなど）をアテにおいしい日本酒をいただいた。交流会では、恒例となっている各支部の紹介が行われた。年に１回、全国の人と顔を合わす数少ない機会のため滑り出しはややぎこちないが、時間とともに会話も弾み楽しい時間を過ごしていただけたと思う。

雪の大谷

翌日は「立山・雪の大谷」の見学。立山へは観光バスで、補助席も使わなければならない人数で向かったが、ガイドさんから聞いた立山有料道路の通行料にびっくり、なんと日本で一番高く観光バスが50，400円だった。この立山有料道路はマイカー禁止で、一般の人は途中の駐車場に車を置き、ケーブルとシャトルバスを乗り継ぎ、室堂へ向かう仕掛けになっている。なかなかうまいことを考えたものだ。

さて室堂に到着後集合写真を撮り、レストランで昼食、その後、今回の目的である「雪の大谷」を歩いた。雪の高さ（最高地点＝14ｍ）は圧巻である。ちょうど15年前の総会も同じコースだったが、その時は前も見えないぐらいの吹雪だった、と前回の参加者が話していたが、今回はこれ以上はないというほどの快晴で、まぶしさのためサングラスを急遽購入する人も。表示されていた気温4℃にしては暖かく感じ、照り返しも強く雪焼けしてしまった。富山県は初めてだったが、ここは必見である。

富山支部の皆さん、2日間にわたりありがとうございました。

（記・岡﨑　正明）

雪山をバックに（室堂）

報告　青年部企画　Designer's Bar OIS

第4回『繋がるということ』

春ですね。春は出会いと別れの季節といいますが、皆さまにはどのような出会いや別れがありましたでしょうか？

2月12日に行われた第4回『Desiner's　Bar』では、新しい年に相応しいイベントが催され、理事の園田氏が自らの仕事をCGの技術を通して紹介されました。

講師の園田理事

氏の普段着のように明るいトークが会場全体に響き渡ると、参加者はみんな真剣に耳を傾けていました。学生たちは最新の技術に触れ将来の自分の姿を思い浮かべながら、その目を輝かせていましたし、その隣で聞いていた叔父さまたちは、技術の進歩に唸らされながら、若い世代を優しい眼差しで見守っていました。

学生から青年、年配者までが集うこの会は、世代を超えた異文化交流を重ねながら成長していく人間模様の縮図のような気がしませんか？

人は、出会いと別れを繰り返す生き物です。

人と人との繋がりを大切にすることは、自らの成長を促すことに繋がります。そこから得た知恵や知識、技術や技能を伝えることができるようにもなります。より良い人生を楽しむために、これからも多くの仲間と楽しい時間を過ごしていきましょう。

ミニミニＣＧトーク

『Desiner's　Bar』で生まれた出会いが今後の皆様の大きな糧に繋がればいいですね。

（記･橋口　新一郎）

第5回　過去最高の賑わい

『Desiner's　Bar』は参加者皆さまのご協力と事務局の支えのもと、おかげさまで5月20日（木）に39人を集め第5回目を無事開催させていただけました。

講師の奥田専務理事

前回からはミニイベントも実施され、その２回目として「デジカメは何で選ぶ？」と題して、元・プロカメラマンという奥田専務理事の話を聞きました。話の内容も分かりやすくためになりましたが、終わった後にビッグな特典がありました。奥田さんが以前使っておられたカメラを参加者にプレゼントされることになり、その貰い手を決める方法としてオークションが行われ、その代金は今後のBarに使われることになったのです。

回数を重ねるごとに若い方、初めての方、相互に顔馴染みになっていく方々がどんどん増え、料理も飲み物も豊富で…終わるのが名残惜しいような盛り上がりでした！

次回は８月の予定です。青年部の企画ですが、もちろんどの年齢層の方でも大・大歓迎です。ぜひ皆さま、お楽しみに今後もふるってご参加ください♪

毎回会場をご提供いただいているコラムさん（宮後会長）、ご協力を心より感謝いたします。　（青年部顧問・森　一芽）

◆ 文化遺産とビール工場見学会 ◆

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）とアサヒビール吹田工場

旧中西家の庭

私は吹田市に住み、旧中西家住宅の存在は知っていたが見学に行くチャンスがなく、今回、OISの企画にのって参加した。

3月28日の日曜日、見学開始時間の午後1時きっかり、旧中西家勝手門前にボランティアのガイドの方々が勢揃いし紹介を受けた後、「当主が思いを込めて隅々まで神経を行き届かせ改装を重ねられてきた庭園とお屋敷を存分に味わって下さい」と説明があり、二班に別れ私の班は庭園から案内して頂くことに。東の庭園、掘り下げてあり水の枯れた池？と思ったら、谷を表わし下から見上げる景色を楽しむように考えられたそうだ。せん瓦が敷かれた通路を通り茶室「喜雨庵」のある西の庭園へ。飛び石には関守石が所々置かれている。茶室から東屋まで少し上り坂になり植栽は軽井沢をイメージして作られ、

掘り下げ式の庭

母屋の前には家族を表した石庭があり、何処から見ても全ての石が見えるように配置されている。

庭の見学が終わり建物内へ。まず母屋の横に勘定部屋棟があり、天秤、一斗升等が展示されている。軒下には大の月、小の月の暦（こよみ）を表す珍しい看板がある。高い敷居をまたぎ母屋に入り見上げると厨子（つし＝屋根裏部屋）には寒さを防ぐ為土が敷かれ、物を運び込むための滑車も備えてあるそうだ。壁には天井裏にあった墨書木槌を３本飾ってあり、代々栄えて欲しいとの思いが込められた物。土間の部分は竈、精米用の踏み臼があった。文化財とは思えぬほどの改装が施されているが、今の内装を取り外すと、建築当時の姿に復元することができる設計になっているという。台所では立派な梁が見え、システムキッチンがあり、床は雰囲気を損なわないようイタリア製の大判タイルが敷かれている。

勘定部屋

江戸末期には市役所的な役割を持ち接客や会議に使われた口の間。土間から応接室まで階級毎に違った入口が設けてあり、江戸時代大庄屋を務めていたことが伺える。部屋には京都の唐長が400年前の版木を使って仕立てた衝立が置かれていた。この住宅のほぼ全ては吹田市指定有形文化財に指定され、同時に国の登録有形文化財にも登録され歴史と深い文化を伝える建物である。

次の見学場所、アサヒビール吹田工場へは徒歩とJRで移動しゲストハウスに到着。企業PR映画『すべてのお客さまの「うまい！」のために。』で、吹田工場はアサヒビールの発祥の地で100年以上の歴史を持ち、1889年にアサヒビールの前身、有限会社大阪麦酒会を設立、２年後に操業開始したと説明を受け、案内係の誘導で工場内へ。原料展示では麦芽やホップを実際に触ることができ、仕込み室、発酵、熟成行程、濾過室等、CGと映像で解りやすく説明が有り、びん詰、缶詰行程等見学。見学当日は日曜日のため製造ラインが止まっていたのは残念であったが、1分間に缶ビール600個が自動で詰められると聞いてびっくりした。再資源化コーナーを通ってワールドビアコレクション3,500種6,000本の世界各国のビール缶が展示されている通路を抜けると工場見学は終了、待ちに待った出来たてビールの試飲である。スーパードライ、黒生、他にジュース等、おつまみ付きで時間は20分。1杯目スーパードライ、２杯目は黒生、それから・・・、美味しいビールのつぎかたの説明を聞きながらもう1杯。ほろ酔い気分で記念撮影後散会、楽しい見学会でした。　（記・寺田 勉）

ほろ酔い気分で記念撮影

手作りサロン 万華鏡教室体験記

OISから送られてきた“手作りサロン”の案内の写真を見て吃驚！昔、小学校の工作で作った万華鏡のイメージではない。あのセルロイドやプラスチックの小片が重なり合ってできる模様ではないのである。

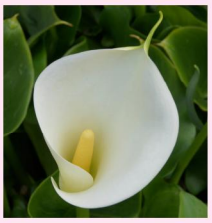
奥田氏設計の設計図を見て、これまた吃驚！　直径30mmのアクリル球がレンズなのである。好奇心旺盛なのが教師のサガ、募集定員も5名とレア物。慌てて事務局へTEL.。「まだ大丈夫ですよ！」の返事にホッとする。

手作りサロン当日の参加者は青年部の瀬部氏、森氏、石渡氏と私の4名。講師の奥田氏の名調子（迷銚子）で、用意していただいた材料を切ったり、貼ったり、丸めたりの工作開始。随所に奥田氏苦心の工夫が見られ、教師として「モノづくり」を指導している私としては感心敬服。1時間半ほどで完成し、参加者が自作の万華鏡を覗いて感嘆しきり。奥田氏の解説のあと雰囲気はサロンへと変身したのであります。充実のひとときを過ごさせていただきありがとうございました。

後日、この万華鏡の本体を紙製から金属製に改良してみようと近所のホームセンターへで出掛け、直系32mmのアルミパイプ、椅子足用のキャップ、スポンジリングを購入。アルミパイプを切断してサロンで作った中身をそのままスライドイン。アクリル球も三角三面鏡も寸分違わずスッポリ納まり無事完成。

今や私の机の上で、癒しのアイテムとなっている。

（記・新野 禎一）



この花↑を今回作った万華鏡↑でのぞくとこのよう↑に見えます。

新会長に筒井さん

“かぶだちの会・昼食会”和やかに･･･

3月26日の金曜日、大阪ビジネスパーク・IMPビル26階の“パノラマスカイレストラン アサヒ”で、65歳以上が会員資格の「かぶだちの会」の昼食会が行われた。

集まったのは30人中10人と、かぶだちの会との交流が目的の理事のうち4人の14人で昼食会は始まった。

冒頭、椿会長があいさつの中で辞任を表明されたため、急遽後任選びを行い、満場の拍手で筒井弘次氏に決定した。筒井さんはかぶだちの会・筆頭発起人で、元・「㈱淀屋」で永年にわたり内装工事に従事、定年退職後もOISへの参加率は常に高く、温厚篤実な人柄で誰にでも好かれるタイプの好ジイチャンである。

当日、これといったイベントはなかったが、年配者が多いため、OISの昔話、健康や年金の話が支配していたように思われるが、桜の二、三分咲きだったのに対し、話題の花は満開であった。最長老の渡邊さんが披露された写真集「讃　北の大地」と「海外撮り歩き」は素晴らしい出来で、話題の一つとなった。

あっという間の2時間余りであったが、昼間からビールやワインを公認のもとに飲み、“昼の酒は回る”などと言いながら、またの再会を期待し、三々五々会場をあとにした。　（記・奥田忠彦）

渡邊さんの写真集

京指物資料館

＜宮崎のたどった百五十年＞

京都府インテリア設計士協会の会長・宮崎さんの会社「宮崎木材工業㈱」が150年の歴史を背景に、『京指物資料館』を開設されました。

同社の歴史に関わってきたもの（京指物を中心に桐ダンス、蒔絵、螺鈿を施した家具、文箱、先生方の図案集等）が展示されています。

そして、今回立ち上げられた新ブランド 「平◇堂（へいひしどう）」の商品も展示販売されています。

開館は基本的に土・日・祝日となっていますので、休日を利用して、ぜひ一度ご見学ください。

京指物資料館
〒604-0804
京都市中京区夷川通堺町西入る絹屋町129
宮崎平安堂ビル2F
TEL.075-222-8221　FAX.075-222-8223

館内のようす（手前にあるのが樹齢400年余りの吉野杉）

開館時間
土・日・祝日／10:00～17:00
月　～　金 ／電話、FAX、E-mail、での予約で受付けています
入　館　料／ 無　料

CAMERA ONEPOINT ADVICE

奥田　忠彦

露出補正 ── 白い被写体はプラス、黒い被写体はマイナス

デジカメにはいろいろな機能が搭載されています。でも、ほとんどの方は、ISO感度の切り替えぐらいで他は「AUTO」任せではないでしょうか。それでもソコソコ写るよう設定されていますから安心して撮ることができますが、ひと工夫することでワンランクアップしますので試してみてください。

「全体に白いものを撮るとき、白いものは明るいので、露出（露光）を切りつめてもいい、全体に黒いものを撮るときは露出をオーバー気味にする」。あなたはこのようにお考えではないでしょうか。それは逆です。

白いものを撮るとき、カメラは「あっ、明るい」と思い、自動的に露出を抑えようとします。黒い被写体の時は逆に、カメラは明るく写そうと努力しますので、作例①・③のように写ります。①も③も「AUTO」での撮影です。②は露出補正「＋1」に、④は「－2」で撮ったものです。白い綿棒、黒い綿棒の様子はかなり違って写っていることのにお気づきでしょう。

露出補正の仕方は、このカメラの場合、①ADJ. またはMENUボタンを押す②ADJ. の場合はＡを選びＢを好みの値に合わせる。MENUの場合はＣを選び調整する。MENUのうち頻繁に操作する項目を選びAJD. に登録できる機種が多いので登録しておくと便利です。これらは機種によって異なりますから、トリセツ（取扱説明書）で調べてください。

①白い綿棒／補正なし

②白い綿棒／補正＋1EV

③黒い綿棒／補正なし

④黒い綿棒／補正－2EV

C→

記事を募集しています！

情報伝達

★「葉知利書」に掲載する記事を募集しています。
「お気に入りの観光地」・「ショップ情報」・「私の仕事」・「OISへの感想」など教えてください。応募要領は次のとおりです。
●文字数＝500字程度●写真＝2～3枚●原稿は郵送・メール・FAXで事務局へ（FAXの場合、写真は郵送）
※文字数や写真の掲載枚数等は、スペースにより編集部で加減させていただくことがあります。
◆採用させていただきました方には記念品を贈呈いたします。

あなたの携帯アドレスを教えてください

現在、PCまたは携帯のアドレスを登録していただいている方へは、不定期に情報を送っていますが、限られた方々だけです。より多くの方々に情報を伝えるため、未登録の方はぜひ登録してください。
近い将来、情報発信の方法として、葉知利書以外に新たに会員限定の携帯メールマガジンの配信などを検討し、より充実した内容をお届けしたいと考えています。
この機会に、お持ちの携帯のメールアドレスをぜひご登録ください。

題名に氏名を入力して下記アドレスへ、メールをお送りください。
右のＱＲコードからも登録できます。

ois@jp-interior.or.jp

携帯メール登録

ＱＲコードで簡単アクセス！

※お預かりしています個人情報等は、OISからの連絡や情報の発信以外に利用することはありません。